

大豆栽培こよみ

大豆の生産安定をめざして

JA 能美
能美小松営農推進協議会

栽培上の要点

- は種前排水対策の徹底による苗立数の確保
- 基本技術の実践
(中耕培土の徹底・除草・防除の徹底・畦間通水の実施・適期収穫)

	5			6			7			8			9			10																
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下														
生育過程				は 種 期						開花期 全体の50%が 開花した頃			さや伸長 子実肥大			黄葉・落葉 成熟期																
作業手順	排水対策	→	力キ鉄工ース散布	→	基肥施用	→	1日行程 は種・覆土 耕起・碎土 種子消毒			→	除草剤散布	→	第一回土寄せ	→	追肥 第二回土寄せ	→	第一回防除 開花期追肥		→	第二回防除 かんばつ 対策の実施		→	第三回防除	→	●刈り取り適期 生育過程の図 収穫作業		→	コンバイン 収穫	→	乾燥・調製	→	出荷・検査

① 種子更新の徹底 品種：里のほほえみ

② 排水対策

- 畝立同時は種は初期の湿害回避に有効です。
- 地下水位50cm以下を目標とし、水田周囲及び圃場内に排水溝を掘る。また弾丸暗きょを併用するとよい。

③ 種子消毒 (ネキリムシ・フタスジヒメハムシ、紫斑病予防、ハト害対策)

薬 剤 名	使 用 方 法
クルーザーMAXX	種子1kgに対して、クルーザーMAXX 8mlを処理し、10分間風乾する。 キヒゲンの粉衣処理が省けます。
キヒゲン	種子1kgに対してキヒゲン水和剤10g＋識別剤10mlを処理し、10分間風乾する。ネキリムシやフタスジヒメハムシ防除には、種子にクルーザーFS30を処理する。

- 種子消毒は必ず実施する。
- 機械は種の場合は詰まる恐れがあるので十分に風乾させる。
- クルーザーMAXXは、キヒゲンの粉衣処理が省け、かつ茎疫病にも効果があります。

④ は種

は種時期		は種量／10a	条間	株間	苗立数／10a	苗立数／m
普通	6月5日～6月20日	7～8kg	75～80cm	13cm(2粒播)	15,000～18,000本	12～14本
麦跡	6月6日以降	7～8kg	75～80cm	13cm(2粒播)	15,000～18,000本	12～14本

- 耕起からは種までの一連の作業は土壌条件の良い日に行い、1日で終わるようにする。
- 砕土は細くし、は種の深さは3cm以内とする。
- 雑草の多い圃場では耕起前にはバスタ液剤500mlを、は種10日前までならラウンドアップマックスロード500mlを水100ℓに溶かし、10aに散布する。

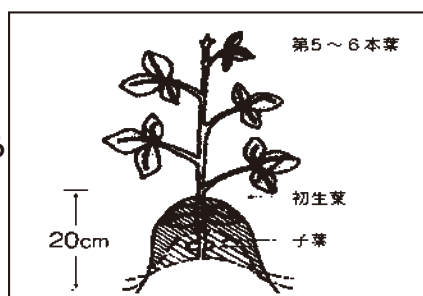
⑤ 施肥基準

施肥時期	肥 料 名	10a当り施用量	備 考
土づくり (酸度矯正)	カキ鉄エース	100kg	酸度矯正はPH6.5～7.0を目標とする。 は種までは、7～10日間あけること。
基 肥	BB056	20kg	麦稈を鋤込んだ場合は、30kg／10a施用する。 連作田では、25kg／10aの施用とする。
	BB大豆一発	30～40kg	麦稈を鋤込んだ場合は、40～50kg／10a施用する。 肥沃田・野菜跡の場合は、30kg／10a施用する。
追 肥	LPコート70 (被覆尿素70)	20kg	第2回培土時20kg
	硫酸	30kg	第2回培土時10kg／10a 7月下旬20kg／10aの2回

(追肥は散布後に培土するので、雨にあわない期間を狙って作業する)

⑥ 土寄せ

- **第1回** 
本葉が2～3葉開いた時、子葉節がかくれる程度まで土寄せする。
- **第2回** 
本葉が5～6葉開いた時、初生葉と第1本葉の間を目安に土寄せする。
- 土寄せは湿害防止、倒伏防止、雑草抑制効果があり
- 株元に十分に土寄せし、うねの中央部が低く
- 遅くとも開花期までに2回目の土寄せを終る



⑦ 除草剤散布 周辺圃場に薬剤が飛散しないように注意すること

- は種覆土後

薬 剤 名	10a当り散布量	希 釈 液	備 考
クリアターン細粒剤F	5kg		畑地1年生雑草
ラクサー粒剤	4～8kg		
クリアターン乳剤	希 釈 液70～100%	水100%に薬量500～800ml	畑地1年生(キク科等除く)

- 7月上旬

散布時期	薬剤名	10a当り散布量	希 釈 液	備 考
イネ科雑草 3～5葉期	ナブ乳剤 または	希釈液100ℓ/ha	水100ℓに薬量200ml	収穫30日前まで
イネ科雑草 3～8葉期	ボルトフロアブル	希釈液100ℓ/ha	水100ℓに薬量300ml	収穫30日前まで
広葉雑草(主にタデ類) 生育初期～6葉 大豆本葉 2葉～開花前	大豆バサグラン 液剤	希釈液100ℓ/ha	水100ℓに薬量150ml	大豆の葉に斑点、色抜け、黄変、萎縮、部分枯死等の薬害が生じる場合がある。収穫45日前まで (JAより使用説明を受ける必要あり)

- **畝間及び畦畔除草**
特に畝間に散布する場合は、大豆に飛散しないように注意する。
散布時期…雑草生育期

薬 剤 名	10a当り散布量	希 釈 液	使用限度回数	備 考
ラウンドアップ マックスロード	希 釈 液 50ℓ	水 50ℓ に 薬 量 500ml	1 回 (大豆生育期)	収穫前日まで は種前と生育期1回ずつでも可。
バスタ液剤	希 釈 液 100ℓ	水 100ℓ に 薬 量 500ml	3 回	収穫28日前まで
ブリグロックスL	希 釈 液 100～150ℓ	水 100～150ℓ に 薬 量 600～1000ml	4 回 以 内	収穫3日前まで

⑧ 病虫害防除（良質大豆生産のため必ず実施すること）（個人防除）

	防 除 時 期	薬 剤 名	散 布 量	対 象 病 害 虫
1 回	7月下旬～8月上旬 (開花期)	スミトップM粉剤	3kg	紫斑病、マメシクイガ、カメムシ
2 回	8月中旬 (幼莢期～子実肥大前期)	トライトレボン粉剤DL	3kg	紫斑病、マメシクイガ、カメムシ
3 回	9月上旬 (子実肥大期)	トレボン粉剤DL	4kg	カメムシ、ハスモンヨトウ、マメシクイガ、フタスジヒメハムシ

⑨ 干ばつ対策

開花後(7月下旬)以後、猛暑が続く、葉が裏がえる症状が見られたら畝間灌水を行う。
なお、畝間に水が行きわたった時点で落水すること。

⑩ 收穫・脱粒・調製

- ## ●収穫の手順

■ 収穫適期の目安

- 子実の水分が18%以下
- 全莢の90%以上が褐色、茎が黄褐色～褐色。

■ 収穫作業は、茎、莢が十分乾燥した午前10時以降に行い、刈取り部は土を入れないように注意すること。

■ 「汚損粒」の発生を防止するため、雑草や青立ち株は刈取前に必ず取り除くこと。

- 調製
子実の水分が13%程度になるように仕上げる。